



あぐりフレンズ・東京 親子で学ぶ東京の農業2018

報告

15 農の豊かさも
守ろう



17

パートナーシップで
目標を達成しよう



開催日：2018年7月26日（木）

参加人数：62名

一般参加者44名（うち子ども25名）、
JA町田市7名、JA東京中央会3名、農水省2名、
東京都生協連6名

主催：JA東京中央会/東京都生協連

◆スケジュール◆

- 9:00 新宿出発
- 10:10 【買い物と見学】アグリハウス鶴川
- 11:10 【収穫体験と生産者のおはなし】
- 12:10 昼食
- 13:10 JA町田市本店へ移動
- 13:40 【野菜のおはなし】
- 15:10 JA町田市本店を出発
- 16:15 新宿着 解散

今回のあぐりフレンズ・東京は、「JA町田市」を訪問しました。この日は、連日の猛暑が少し収まり、若干過ぎしやすい天候だったので、みんな元気に収穫体験することができました。また、東京の農業や野菜についてのお話を、クイズを交えながら話していただき、更に知識も深めることができました。

あぐりフレンズ・東京とは・・・

JAと生協が協同することで、消費者と生産現場の架け橋になり、東京の農業の活性化につなげたいと、2006年よりJA東京中央会と東京都生協連の共催で取り組んでいるものです。

買い物と見学：アグリハウス鶴川



JA直売所のひとつ「アグリハウス鶴川」に立ち寄り、施設見学を兼ねて買い物をしました。町田産の朝穫りの新鮮な野菜がお手頃な価格で並ぶ店内に、参加者のみなさんは「安～い！」と興奮気味。この後、収穫体験を控えていることも忘れるほど、買い物を楽しみました。

収穫体験と生産者のお話：榎本農園

今年の夏は例年に比べ気温が高く、農産物の生育も早まってしまったため、急きょ収穫場所と内容を変更して収穫体験をおこないました。観光農園のように整備された畑ではなく、自然なままの畑でブルーベリーの収穫とジャガイモ掘りを体験させていただきました。「ブルーベリーって、こんな風に木になっているんだ～」「大きなジャガイモがいっぱい出てきたよ！」都会では味わえない木々や土の感触を肌で感じながら、大人も子どもも夢中になって収穫していました。



どれにしようかな？



宝物がたくさんとれたよ！



昼食：ゼルビア×キッチン



Jリーグクラブの定食屋さん「ゼルビア×キッチン」で町田産の野菜を使ったカレーをいただきました。



ピーマンがとっても甘くてビックリ!

やさいのおはなし：JA町田市本店

最初に、JA町田市の宮下常務理事・東京都生協連の秋山専務理事・JA東京中央会の榎本専務理事からご挨拶をいただきました。みなさんからは「東京でもたくさんの野菜や果物が作られていることを知って欲しい」「今日の経験を、心の思い出の1ページにしっかり刻んで、これからも東京の農業を支えるサポーターになって行って欲しい」と、東京の農業に対する、共通した思いが伝えられました。

その後、JA町田市経済部の榎本さん・石川さんより、東京の農業や収穫した野菜などについてのお話をお聞きしました。東京の農家数・農地共に減少傾向にあること、日本では、米・さつまいもの自給率は高いが、大豆や小麦はほとんどが輸入に頼っていること、東京で作られている農産物には、小松菜・キャベツ・大根・シクラメン・東京×(豚)・果物(ブルーベリー・梨・ブドウなど)があることなどを教えていただきました。また、クイズを通して野菜に関するミニ知識を教えていただき、子どもたちも楽しく学ぶことができました。

終了後には、一人ひとりにナスとキュウリと、子どもたちにはカブトムシのお土産もいただき、みな両手いっぱい思い出を抱えて帰路につくことができました。



《都市農業の大事な役割》

- ①環境保全
- ②防災の空間
- ③農業体験&交流の場

《おいしい野菜を選ぶコツ》

トマト：上下をひっくり返して、中心に沿って線が入っているもの
にんじん：葉を切り落とした頭の部分が狭いもの



● 野菜クイズ

- ① 東京でいちばん多く生産されている野菜は？
A：小松菜（小松菜は東京・江戸川生まれの野菜）
- ② スイカ・トマト・柿・イチゴのうち、果物はどれ？
A：柿（人間が全く手を加えなくても毎年実がなるものが果物）
- ③ 夏野菜と冬野菜の違いは何？
A：1シーズンに複数回収穫できるものを夏野菜という（トマト・ピーマン・キュウリ・ナスなど）
- ④ 「オクラ」は何語？
A：英語（オクラの原産国はアメリカ。和名はアメリカネリ）



アンケートより抜粋（原文のまま）

◆ おとな

- ・東京に農地を保全していくことを意識するべきだと思いました。地産地消の取り組みなど、自分にできることは応援していこうと思います。
- ・東京の農業が急激に減少していることがわかりました。子どもの学校の給食（台東区）に町田の野菜が使われていることを知って嬉しく思いました。
- ・農地が防災時などにも必要であることは知りませんでした。東京の農業を守るため、積極的に産地を気にしながら購入していきたいと思います。

◆ 子ども

- ・とうきょうでは、こまつなが一番多く生産されていることがおどろきました。
- ・いろいろなやさいのことをおしえてくれてありがとうございました。
- ・野菜が前よりもっと好きになった。
- ・とうきょうでやさいがつくられていることがしらなかったからびっくりした。
- ・じゃがいもは一つだけじゃなくて、いっぱい土の中にはいっているんだなーと思いました。
- ・ブルーベリーはひかげのほうが甘いことをはじめてした。